



北海道 美瑛町の風景 ちょっと日本離れた田園風景に見える。 5x7 150mm 上下カット

フレーミングを考える

会長 鈴木 克彦

風景写真を考える場合、その構図が理にかなった尺度で捉えられているか？ 全体の纏まり、バランス、目線の先のポイントは？ 季節感、そして写真から語りかけてくるモノは何か？ 等々…郷愁を誘うフレーミングは大判カメラでは可能なのです。

ご存じのように、大判カメラはアオリ機構が付いていて自分のイメージした構図に創り替えることが出来るからです。垂直水平に立てたカメラの構図から、それが余りに平凡であり、面白味のない風景であっても、それを如何においしそうに料理するか、そこからが撮影者の技量を発揮する場面となります。上の写真では、手前の緑地を大きく捉えるべく後枠を後ろへ大きく倒

しています。それがより大きな遠近感を創ります。

目線は右側の白い建物に行き、そこから左側へと流れていきます。それから山へと移行していき、初冬のやや寂しげな、これからの季節感、厳冬期を感じさせてくれるのです。と言うように、物語を見立てていけば自ずと構図がイメージされアオリの使い方が出来てきます。何ミリのレンズを使うか、その判断で大きく変わってきます。

風景写真の撮影には下見が欠かせません。春夏秋冬、時間帯、そして立ち位置（カメラの高低）レンズの選定までもがイメージされていれば、鬼に金棒と言ったところでしょうか。今年よりは来年の作品がステップアップされますように！ 頑張りましょう。

協会には「関西メーリングリスト」が設定されています。撮影地や、情報交換に便利です。まだ参加されていない会員の方はszk@crocus.ocn.ne.jp までご連絡下さい。登録して楽しい日々を送りましょう。

日本大判写真展2017 出展作品について

運営委員長 田中 明

「暑中お見舞い申し上げます」

梅雨明けとともに35℃近くの猛暑日が続く、これより夏本番、撮影には厳しい時期となりますが、会員各位には体調面にご留意戴き、撮影に励んで下さい。

2017展の出展に向けた出展候補作品のノミネート審査を、10月までの各月の研究会において順次進めてまいります。

7月の研究会では、

- 1) カラー作品：自由作品7点 (5名)
- 2) モノクロ作品：4点 (3名)

の合計11作品（7名）の方が、出展候補作品のノミネート審査を完了されました。

10月までの各月の研究会で、引き続き出展候補作品の審査・ノミネートを進めます。会員各位におかれては、出展希望作品を提出戴く様、宜しくお願い致します。

なお11月研究会で実施予定の「最終出展作品選定会」では、1)各月の全ノミネート作品の中から最終出展作品の選定作業と、2)ノミネート済み作品の別作品への差替作業のみを行います。ついては、10月研究会までに出版候補作品のノミネートを完了していない会員の作品審査は、11月研究会にて実施予定の「最終出展作品選定会」では行いません。この点、充分にご注意の上、出版候補作品のノミネート審査に臨んで下さい。

8月研究会開催のお知らせ

研究会担当 垣内 晃

8月より名称を例会改め研究会と致します。8月研究会を下記日程で開催致しますので、会員の皆様、奮ってご参加下さい。

日時：8月20日 (土) 13:30~17:00

場所：大阪・南船場 大阪写真会館

3階会議室

内容：

1. 出展候補作品のノミネート審査

7月に引き続き、2017展 出展作品のノミネート審査を行います。ついては、1)フィルムのデジタルデータの持参か、2)原板フィルムの研究会開催日の1週間前迄の事務局への郵送のいずれかの方法で、各自5点までの出展希望作品の提出をお願い致します。（注：当日の例会会場での原板フィルムのスキャンは行いません）

今年は2017展 出展作品の最終審査締切は10月例会です。2017展への出展を希望される会員は、必ず今月を入れ10月までの3回の例会で出版作品の審査を完了しててください。11月研究会での開催を予定しています『最終出版作品選定会』では、出版作品の最終原板確認とノミネート済み作品の別作品への差替作業だけを行います。今年度から11月研究会にだけ作品を提出し、出版審査を受けることは出来ません。この点、ご注意ください。

会員の皆様より、多くの作品をお寄せ戴けます様、宜しくお願い致します。

2. モノクロ研究会

8月研究会のテーマは、『モノクロ写真撮影の基本』です。コントラスト調整用フィルターの使い方や露出の決め方等々の『撮影時の基礎知識』をテーマに行います。その他『4x5フィルムの現像方法』などの各種情報交換も予定しています。

※研究会終了後に、運営員会の開催を予定しています。運営委員は研究会終了後、会議室に残って下さい。

重要連絡 年会費振込の確認依頼（再々連絡）

会計担当 橋本 雅由

7月号にて平成28年度年会費の振込のお願いを再度致しましたが、会員各位には今一度年会費振込の確認を頂き、振込みをお忘れの方はお手数ですが8月15日(月)までに、下記振込口座宛に年会費12,000円の振込みをお済ませ下さい。

振込先；ゆうちょ銀行

記号：14440 番号：43090361

口座名義：ニホンオオバンシャシンカキョウカイ

振込金額：12,000円

振込期限：8月15日(月) 厳守下さい

京都市洛西竹林公園撮影会の報告

会員 橋本 雅由



先ずは、暑さにバテる前に記念撮影を…

七月二十三日天候晴猛暑日。

はるばる名古屋から参加された箕浦靖夫さんに、関西会員十三名と、大判カメラ体験会にご参加頂いた前田氏、干場氏、杉本

氏の三名を加えて総勢十七名にもおよぶ近頃稀にみる大撮影会となりました。

9時に公園駐車場に集合。会長挨拶もそこそこに、この暑さに脱落者もあるかもと云うことで早々に記念集合写真を撮影。

公園の総面積1万坪の内「生態園」と呼ばれる部分は1,500坪。そこは約110種の竹や笹を主体とした回遊式庭園となっており、一同園内の「竹の資料館」を起点に夫々撮影場所を探して行動開始。しかし行き着く所は結局皆同じ場所に。ここは各人の感性の違いを研究会で是非魅せて欲しいところ。



え〜っと、露出計の使い方は…

昼食後、今度は園内、園外、夫々思い思いの場所を求めて散らばって行きました。午後三時と決めていた解散時間には、まだ何名かの方は姿を見せず、撮影に頑張っておられる様子でした。



体験会参加者も終盤にはカメラを扱う姿もサマになり…

体験会に参加頂いた方の協会入会を期待しつつ、真夏の撮影会も無事終わることができました。

平成28年度撮影会 年間スケジュールについて

撮影会担当 高田 幸二

6月の定期総会において、出席者の皆様に撮影会の希望地のアンケートに記入いただきました。7月研究会の席上、アンケート結果に基づき、以下の通り今年度の撮影会の年間スケジュールを決定致しましたのでお知らせ致します。

今年度より、各撮影会において撮影場所を熟知されている会員の皆様に、案内者として現地の撮影ポイントを案内して戴きます。併せて会報に掲載する撮影会報告の執筆もお願い致します。

1. 京都市洛西竹林公園 7月23日 日帰り
案内者：橋本 雅由
2. 近江八幡 水郷 9月下旬頃 日帰り
案内者：長谷川 浩常
3. 開田高原 10月下旬頃 2泊3日
案内者：鈴木 克彦
4. 鳥取 大山周辺 11月下旬頃 2泊3日
案内者：安達 正樹
5. 富士山周辺 2月頃 2泊3日
案内者：前田 宗彦
6. 京都市 中川地区 北山杉 5月頃 日帰り
案内者：菅河 修

※特別寄稿記事※ 手作りカメラ製作記

事務局 松本憲治

『大判カメラを楽しむには、中古のカメラを購入するしか無い』そう思いの方へ、是非とも読んで頂きたい記事を姫路市在住の安達会員に執筆戴きました。

『大判カメラを一から制作するのは、少々ハードルが高い…』とお考えの方には、目からウロコの「中古のポラロイドランド120」を改造して、『ハンディなコ

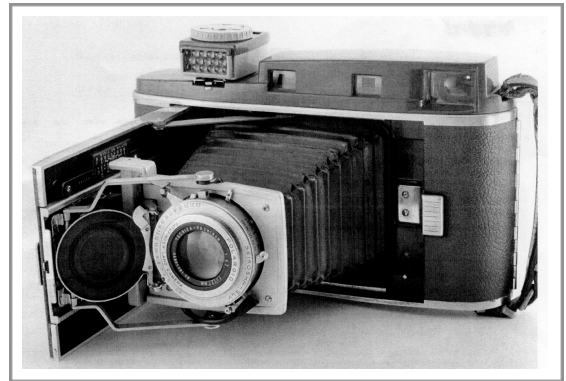
ンパクト4x5カメラ』に改造する本記事は、大いに参考になるかと思います。

因みに安達会員は、今回紹介の手作りカメラを駆使して『手持ちでの4x5フィルム撮影』を大いに楽しんでおられます。

*** 特別寄稿記事 *** ポラロイド ランド120を コンパクト4x5カメラに改造

会員 安達 正樹

改造のベースとなったポラロイド ランド120カメラ

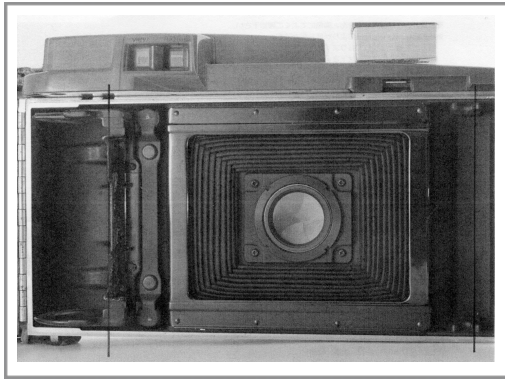


ランド120は、ポラロイド社が1961年(昭和36年)にヤシカに製作依頼した様で、レンジファインダー式で蛇腹とレンズ(ヤシノン127mm F4.7)が前面に収納してあり、かなりコンパクトな設計になっている。蓋を開くと蓋全体がレールとなり、レンズと蛇腹を最大引き出すと無限遠となる。蛇腹とレンズを押し込むと、ボディの中に確実に収納できる優れものだ。

|| 手札サイズのレンジファインダーポラロイドカメラ ||

これを4x5にどう改造するか？ 基本は手持ち撮影。

◎まずフィルム面の手札サイズ枠を外して、蛇腹を無限大にして4x5撮影済みのフィルムでサイズ確認をする。全体に蛇腹の内側が干渉するが、4x5サイズが約1割程度の減か？この程度あれば問題ないので改造する。



カメラの裏蓋を外した状態

左右の線の部分でカメラを切断して改造に使用した

◎カメラの裏側を外し、4x5フィルムホルダーをカメラ中心部にあてがうとかなりの面積を取る。レンジファインダーをフィルムホルダーが覆ってしまうので、使用不可となるレンジファインダーを撤去。

◎カメラの裏側とレンジファインダーを外すと、光が入り込まないように裏蓋と本体にしっかりしたガイド面がある。これを利用することにする。簡易測定だが、レンズの中心とガイド面がほぼ直角であり、このガイド面を『基準平行面』とする。

◎基準平行面にレンズの中心と4x5の中心を決め、フィルムホルダーを当て全体のバランスを考え、カメラの左右を切断する。ポラロイドのフィルム室に樹脂を流し込み、光が入り組むのを防ぐために基準平行面と面一にする。

◎大きめで光沢がある固い木で、まず4x5のフィルムホルダーの入る枠を確保し、カメラ本体が入る貫穴を作成。ヤスリ等々で慎重に現物合わせて加工し、接着剤でカメラに固定する。



加工した本体を木枠に固定した状態

◎フィルムホルダーは、並行基準面に沿って光軸と垂直を保つので、フィルムホルダー室は光が入らないように確保するだけで良い。しかし、一番の問題は『フィルムホルダーの固定方法』である。色々と試行錯誤の結果、『太い輪ゴムで止める』ことにした。上下の四カ所に輪ゴムを引っ掛けるピンを取り付ける、シンプルで一番簡単な方法にした。



4x5フィルムホルダーを取り付けた様子

カメラ上部に付いているのはファインダー

カメラの左側面にあるのが抜き穴加工したグリップ

◎木部に余裕があり、左部に小判型の抜き穴を作り、自分の手に合わせて握りやすいグリップを作る。右部はフィルムホルダーいっぱい加工したが、全体に細長くなりバランスも悪く重い右側は、ホルダーが止められるギリギリの寸法でカットする。上部はファインダーを取り付けるクイックシュー部を確保し、下部には三脚取り付け用のネジ穴を確保した。

◎ピント合わせは、ピントグラスで見るようにした。フィルムホルダーを二分割し、間にピントグラスをはめ込み使用。ピント確認はこれで完璧。



フィルムホルダーに嵌めたピントグラスに像が映る様子

◎元々カメラに付属していたレンズはカビが発生しており使用に耐えないと判断。手持ちのレンズを探すと同じ127mmが無く、イギリス製のエンサインオートレンジの105mm F4.5アポレンズを泣く泣く使用することにする。このレンズは凄いレンズなのだ！



改造したカメラにレンズを付けて引き出した状態

レンズを取り付け蛇腹をいっぱいに出してピントグラスで確認すると、ピント面は無限大がきており、105mmと127mmの差22mmが無くなっている。ピント面が良い方にずれたのか？このまま使用する。

※このカメラで撮影した作例※



作例1：仙酔峡 ミヤマキリシマ
(周辺部に蛇腹による僅かなケラレが見受けられる)



作例2：上高地 焼岳の夜景

(完)

如何でしたでしょうか？「ポラロイドランド120をコンパクト4x5カメラに改造」する手作りカメラの製作記。

中古カメラを元に改造した手作りカメラとは云え、安達会員は各種のレンズやカメラに関する豊富な知見をもとに、見事なまでに完成度の高い「コンパクト4x5ハンディカメラ」に仕上げた手腕には、「お見事！」と云うほかありません。（純正のリンホフのバッジも付いてて、一瞬、リンホフ製？と見間違ふほどの仕上り…）

実際にカメラを拝見した時には、「えっこれが手作りですか？」と聞いてしまう程の高い完成度で、特にカメラの左側面につけた取っ手の握りやすさと、カメラのホールド性の良さには、カメラを拝見した同席者一同、感服致しました。

ここまでの完成度の高いものは一朝一夕には無理ですが、手作りカメラでの撮影に挑戦してみるのも、大判カメラの楽しみ方の一つかと…